

宗教学9「一神教とその世界を学ぶーグローバル社会における平和構築のために」

小原克博（神学部教授、一神教学際研究センター長）

<概要>

この授業では、一神教の歴史や教義、一神教が影響力を及ぼしている世界の様子を知ることによって、グローバル社会における平和構築の手がかりを考察することを目的とします。

「一神教」という言葉は、わが国ではしばしば「多神教」の対語として用いられてきましたが、その場合の一神教とは、ひとまとめにされたユダヤ教・キリスト教・イスラームであり、それぞれの差異や実態はほとんど考慮されずに、もっぱら否定的なイメージを与えられてきました。その傾向は、9.11同時多発テロ事件（2001年）以降、いっそう強まってきたと言えるでしょう。戦争やテロを起こしているのは、主に一神教に関係する人々であって、一神教が今日の紛争の元凶となっている、多神教的な価値観こそ世界平和に貢献できるのだ、といった論調です。

確かに、イラク戦争後のイラクやアフガニスタンにおけるテロや紛争、あるいは、いまだ出口の見えないイスラエル・パレスチナ問題などを考えると、一神教が紛争に関係していることは無視できません。ただし、それらを「宗教紛争」として単純化するのは、真の原因から目を背けることとなります。複雑に絡み合った政治と宗教の問題を解きほぐし、一神教世界の現実に少しでも近づいていく努力が求められます。

好む好まずにかかわらず、今日の世界を理解するためには、一神教に対する基礎知識が必要です。約21億人のキリスト教徒、約15億人のイスラーム教徒を合わせると、世界人口の過半数を超えます。世界で二人に一人は一神教徒だということになります。ユダヤ教徒は1400万人を占めるに過ぎませんが、その歴史的影響力は看過できないものがあります。

この授業では、以上のような課題に向き合っていくために、ユダヤ教、キリスト教、イスラームの歴史的・教義的基礎知識を身につけると共に、現代のグローバルな問題を分析していくために必要な方法論を学んでいきます。また同時に、日本社会と一神教世界をどのように関係づけることができるのかといった課題も取り上げ、私たちが、より現実的な形で平和について語る事ができる道を探っていきます。

■この授業のための専用ページ：毎回の授業用資料を事前にアップします。必ずチェックすること。

小原克博 On-Line <http://www.kohara.ac>

→ Education → 講義概要・シラバス → [2011年度 春学期] 宗教学9

■一神教関係の情報リソース

同志社大学 一神教学際研究センター（CISMOR） <http://www.cismor.jp>

■E-mail: kkohara@mail.doshisha.ac.jp